

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
二コマ続きの実習時間を有効に使うって、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	前期1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2	2回目 自主制作①
3	3回目 自主制作②
4	4回目 自主制作③
5	5回目 自主制作④
6	6回目 絵画研究①
7	7回目 自主制作⑤
8	8回目 自主制作⑥
9	9回目 自主制作⑦
10	10回目 絵画研究②
11	11回目 自主制作⑧
12	12回目 自主制作⑨
13	13回目 自主制作⑩
14	14回目 作家研究発表
15	15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	後 期 1 回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2	2 回目 自主制作①
3	3 回目 自主制作②
4	4 回目 自主制作③
5	5 回目 自主制作④
6	6 回目 絵画研究①
7	7 回目 自主制作⑤
8	8 回目 自主制作⑥
9	9 回目 自主制作⑦
10	10 回目 絵画研究②
11	11 回目 自主制作⑧
12	12 回目 自主制作⑨
13	13 回目 自主制作⑩
14	14 回目 作家研究発表
15	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					
授業目的と到達目標					
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。					
授業概要					
教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。準備学修(予習・復習)・受講上の注意としては、制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で案内する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

教員が、版画家として、また社団法人春陽会版画部会員の経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	【第1回】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【第2回】表現方法・技法について協議
3	【第3回】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【第4回】作品制作。授業開始時に個別指導
5	【第5回】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【第6回】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【第7回】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【第8回】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【第9回】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【第10回】作品制作。授業開始時に個別指導
11	【第11回】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【第12回】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【第13回】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【第14回】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【第15回】鑑賞・合評、まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					
授業目的と到達目標					
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。					
授業概要					
教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。準備学修(予習・復習)・受講上の注意としては、制作の記録が出来るスケッチブック等を持参すること。また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で案内する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

教員が、版画家として、また社団法人春陽会版画部会員の経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	【第16回】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【第17回】表現方法・技法について協議
3	【第18回】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【第19回】作品制作。授業開始時に個別指導
5	【第20回】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【第21回】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【第22回】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【第23回】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【第24回】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【第25回】作品制作。授業開始時に個別指導
11	【第26回】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【第27回】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【第28回】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【第29回】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【第30回】鑑賞・合評、まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。					
授業概要					
教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作を通して、画論や画材の研究・技法の理解等を多く学習し、作家としての在り方を把握する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				

1

モチーフは自由。岩絵具、膠、胡粉、麻紙、絹、箔など豊富な日本画の素材を知り、日本画の歴史を通じて高度な知識や現代的表現を身につける。

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。					
授業概要					
教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作を通して、画論や画材の研究・技法の理解等を多く学習し、作家としての在り方を把握する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				

1

モチーフは自由。岩絵具、膠、胡粉、麻紙、絹、箔など豊富な日本画の素材を知り、日本画の歴史を通じて高度な知識や現代的表現を身につける。

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究・新しい画材や未知なる表現の開拓・年間の制作号数 500 号の達成・積極的な作品発表、成果の獲得以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対しての指導・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
<p>教員の制作について{久世直幸オフィシャルサイト,https://kuzenaoyuki.com} {一般社団法人 創画会,https://www.sogakai.or.jp}</p>					
特記事項					

教員実務経験

日本画家で一般社団法人創画会会員としての制作や発表の経験とスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識や技術、これからの絵画制作についての知見など、制作者として必要な技能の総合的な修得を目指した指導を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察①
2	2.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察②
3	3.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究①
4	4.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究②
5	5.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究③
6	6.表現、技術、素材についての研究①
7	7.表現、技術、素材についての研究②
8	8.表現、技術、素材についての研究③
9	9.表現、技術、素材についての研究④
10	10.表現、技術、素材についての研究⑤
11	11.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)①
12	12.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)②
13	13.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)③
14	14.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)④
15	15.美術業界について(画壇、画商マーケット、アートフェア、美術出版)

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024 年度 後期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究・新しい画材や未知なる表現の開拓・年間の制作号数 500 号の達成・積極的な作品発表、成果の獲得以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。					
授業概要					
【対面授業】・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
{久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com }{一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }					
特記事項					

教員実務経験

日本画家で一般社団法人創画会会員としての制作や発表の経験とスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識や技術、これからの絵画制作についての知見など、制作者として必要な技能の総合的な修得を目指した指導を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての再考察
2	2.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究
3	3.表現、技術、素材についての研究①
4	4.表現、技術、素材についての研究②
5	5.表現、技術、素材についての研究③
6	6.表現、技術、素材についての研究④
7	7.表現、技術、素材についての研究⑤
8	8.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)①
9	9.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)②
10	10.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)③
11	11.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)④
12	12.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)⑤
13	13.年度末発表に向けた展示計画
14	14.制作の総括、日本画語句テスト
15	15.制作の総括、講評会

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	大西 守博				
クラス名					
授業目的と到達目標					
このゼミでは、絵画表現における各領域の再認識、先行研究の検証などを通じて、個々の学生(個性)が本来持つ無限の可能性の自己認識、気づき、研究の新規性等の確立を授業目的とする。制作の動機、研究課題の明確化又は深化。テーマに対する最適な表現手段、技法の研究・演習を体験することで、自己設定の目標を自ら達成しうる表現力の向上を、達成目標とする。例えば「写実」から「写意」への移行、あるいは「具象的表現⇔抽象的表現」等その必要性についての検証、研究。					
授業概要					
* 平面表現の可能性の講義、ディスカッションを行いながら、自己研究テーマの気づきへのいざない * 視覚的表現の中に潜む感情表現の意味(先行研究紹介) * 研究テーマについての自己説明とそれにふさわしい表現方法、技法の研究 * 具象表現と抽象表現についての考察から、自己表現の深化(新規性の探求) * 積極的な制作発表の環境づくりの構築のサポート * 自己設定した研究テーマの実際の制作演習					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
今までにある表現方法や技術を学ぶという姿勢ではなく、自ら研究し、新規性の発見、これからの新しい表現を追求してゆく姿勢が何よりも重要である自己研究に関わる先行研究の調査、検証などを積極的に進めること					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品の評価、及びディスカッション、討議中の内容などを総合的に評価			1		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
大西 守博 日本画家(公益社団法人日展会員)日本画家としての実務経験を活かし、学生の研究課題に寄り添う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1.【ガイダンス】 担当教員とのディスカッション(現状報告・今後の目標等に対する対話)
2	2.【研究主題設定にむけての取材・研究】<1> 資料収集等(研究主題に対する考察、深化作業)・他者作家や先人作品の研究検証
3	3.【研究主題設定にむけての取材・研究】<2> これまでの自身の作品と、自身が選んだ他者作品との比較検証
4	4.【研究主題の決定・制作方法の検討】(1) 自己テーマの発表、ディスカッション、考察
5	5.【研究主題の決定・制作方法の検討】(2) 制作領域の把握、検証 / 専門性の深化
6	6.【研究制作演習準備】 写生・資料収集・支持体選定準備
7	7.【制作演習】① 自己設定したテーマに基づいた本画制作
8	8.【制作演習】② 自己設定したテーマに基づいた本画制作
9	9.【制作演習】③ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
10	10.【制作演習】④ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
11	11.【制作演習】⑤ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
12	12.【制作演習】⑥ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
13	13.【制作演習】⑦ 制作作品のプレゼンテーション・担当教員との討議・評価検証
14	14.【制作演習】⑧ 検証結果の作品への検討・専門的知識、表現技法の指導等
15	15.【制作演習】⑨ 研究報告書の作成・提出

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	大西 守博				
クラス名					
授業目的と到達目標					
このゼミでは、絵画表現における各領域の再認識、先行研究の検証などを通じて、個々の学生(個性)が本来持つ無限の可能性の自己認識、気づき、研究の新規性等の確立を授業目的とする。制作の動機、研究課題の明確化又は深化。テーマに対する最適な表現手段、技法の研究・実習を体験することで、「写実」から「写意」への移行あるいは「具象的表現⇄抽象的表現」等その必要性についての検証、研究。自己設定の目標を自ら達成しうる表現力の向上を、達成目標とする。					
授業概要					
* 平面表現の可能性の講義、ディスカッションを行いながら、自己研究テーマの気づきへのいざない * 視覚的表現の中に潜む感情表現の意味(先行研究紹介) * 研究テーマについての自己説明とそれにふさわしい表現方法、技法の研究 * 具象表現と抽象表現についての考察から、自己表現の深化(新規性の探求) * 積極的な制作発表の環境づくりの構築のサポート * 自己設定した研究テーマの実際の制作演習					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
今までにある表現方法や技術を学ぶという姿勢ではなく、自ら研究し、新規性の発見、これからの新しい表現を追求してゆく姿勢が何よりも重要である自己研究に関わる先行研究の調査、検証などを積極的に進めること					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品の評価、及びディスカッション、討議中の内容などを総合的に評価					
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
大西 守博 日本画家(公益社団法人日展会員)日本画家としての実務経験を活かし、学生の研究課題に寄り添う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1.【ガイダンス】(2) 担当教員とのディスカッション(現状報告・今後の研究内容、到達目標等に対する再検討)
2	2.【研究主題設定にむけての取材・研究】<1> 資料収集等(研究主題に対する考察、深化作業)・先行研究の調査
3	3.【研究主題設定にむけての取材・研究】<2> 過去の自身の作品の多角的視点からの再検証(先行研究との比較研究)
4	4.【研究主題の決定・制作方法の検討】(1) 研究テーマの発表、ディスカッション、考察、ディスカッション
5	5.【研究主題の決定・制作方法の検討】(2) 制作領域の把握、検証 / 専門性の深化・対外発表を意識した客観的検証、研究
6	6.【研究制作演習準備】 写生・資料収集・支持体選定準備
7	7.【制作演習】① 自己設定したテーマに基づいた本画制作
8	8.【制作演習】② 自己設定したテーマに基づいた本画制作
9	9.【制作演習】③ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
10	10.【制作演習】④ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
11	11.【制作演習】⑤ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
12	12.【制作演習】⑥ 自己設定したテーマに基づいた本画制作
13	13.【制作演習】⑦ 制作作品のプレゼンテーション・担当教員との討議・評価検証
14	14.【制作演習】⑧ 検証結果の作品への検討・専門的知識、表現技法の指導等
15	15.【制作演習】⑨ 研究報告書の作成・提出

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということ、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2	こちいい本				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。

教員実務経験

kokokumar.com

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)</p> <p>後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)</p> <p>学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。					
授業概要					
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
取り組む意識			40		
提案の幅と作品			60		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	こちいい文字				
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。

教員実務経験

kokokumaru.com

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	<p>前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。 即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。)後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。)学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。</p>

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表を社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。）講義と作品制作についてそのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトへなど社会参加も積極的にすすめる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。復習:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を解決へと導く。新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書情報					
教科書1	授業でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
大学で写真を専攻(大阪芸術大学写真学科卒)、大学院で写真教育の日米比較を調査研究し((芸術文化研究科前期修了)。また文化庁派遣芸術家在外研修(アメリカ、サウスハンプトン大学美術メディア学部客員研究					

員)、チビテララニエリセンター選考アーティスト・イン・レジデンス。秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス 2015。大理国際写真祭、平遥国際写真祭、テラビリス国際芸術祭など招待され、さらにテグ写真ビエンナーレ 2016 で日本人初の芸術監督。2020 年ヘルシンキ写真祭国際審査員。国内外で展覧会、ワークショップ

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	21 世紀の写真表現は多岐多様にわたり、その輪郭を捕まえることは容易ではない。そのために、授業のなかでは、研究領域や自らの研究テーマの枠にとらわれない思考を深めるために、様々な教材を提示することを基本として、以下を授業で展開する。1) 知識を増やすように指導。2) 成果物としての作品や小論文などについてディスカッションを深める。3) 作品を社会へ発表するための準備を指導。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。）講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習: 表現者として、研究のために必要な文献を熟読。復讐: 文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書情報					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
大学で写真を専攻(大阪芸術大学写真学科卒)、大学院で写真教育の日米比較を調査研究し((芸術文化研究科前期修了)。また文化庁派遣芸術家在外研修(アメリカ、サウスハンプトン大学美術メディア学部客員研究					

員)、チビテラニエリセンター選考アーティスト・イン・レジデンス。秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス 2015。大理国際写真祭、平遥国際写真祭、テラビリス国際芸術祭など招待され、さらにテグ写真ビエンナーレ 2016 で日本人初の芸術監督。2020 年ヘルシンキ写真祭国際審査員。国内外で展覧会、ワークショップ、シンポジウムなど国内外での写真教育を調査研究した経験とともに、現代に即した最先端の写真教育を行います。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン(振り返り)
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>1.社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。</p> <p>2.他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。</p> <p>3.これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。</p>					
授業概要					
<p>クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域でのARTについて研究する。個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。授業は対面を基本とする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>過去に追求してきたテーマを、今後の作品制作の展開への参考資料となるよう常にポートフォリオの形でまとめ上げておくこと。欠席の時は必ず報告をすること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	これまでの研究テーマを再考し、修士課程2年間の中で、どのような研究が成果をもたらすのかを考えながら、研鑽努力をする。そして、その為に必要な資料や参考文献を得る為に、学内外の図書館利用を活発に行う。写真、映像、ミクストメディア等、写真表現の広域性に注目し、スケール感のある作品制作に挑戦する。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>1.社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。</p> <p>2.他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。</p> <p>3.これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。</p>					
授業概要					
<p>クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域でのARTについて研究する。個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。欠席の時は必ず報告をすること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	夏休み中に制作した作品の講評
2	作品のプリント制作
3	作品の book 制作とインデザイン
4	book 制作とインデザイン
5	プリント制作とポートフォリオ制作
6	ギャラリークルージング
7	ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作
8	展覧会に向けての構想
9	展覧会場の視察
10	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
11	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
12	展示会場設営
13	二年次に向けての制作準備
14	二年次に向けての制作準備
15	二年次に向けての制作準備

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>対面 502 教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>プロダクトデザインでは 3D の CAD の習得が不可欠です。可能であれば WINDOWS 環境でのライノでのモデリングの基礎は数得しておいてもらえると、その後の進行はスムーズに移行すると思います。もちろんこれ以外のモデリングソフトでも経験値があるとかなり違います。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合 (%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書 1					
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名 1					
出版社名		著者名			
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					
出版社名		著者名			
参考書名 5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
 {WIKI,<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%84%E5%B7%9D%E4%BC%B8%E4%B8%80>}{PORTFOLIO,<https://sumikawadesign.amebaownd.com/> }
 {コラム「澄川伸一デザイン道場」,<http://www.pdweb.jp/column/index.shtml> }
 ▼プロフィール 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TVなどをデザイン。1991年澄川伸一デザイン事務所設立、現在に至る。グッドデザイン賞審査員を13年務める、うちユニット長も数多く務めた。また様々な企業のデザイン戦略のアドバイザーも務める。2016 リオ・オリンピック,2020 東京オリンピック公式卓球台を二大会連続デザインし世界中の話題となる。卓球台は高校の美術の教科書に名前入りで掲載された。日本文教出版「高校生の美術 3」光村図書「美術 3」など
 2017 年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツ IF デザイン賞受賞。その他、REDDOT,グッドデザイン賞など受賞歴多数あり。
 ベネッセ進研ゼミのタブレットなどメイン教具をデザイン担当、その多くは TVCMなどで放映されている。
 学生時代よりバックパッカーとして世界 57ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。また、スキューバダイビング PADI アドバンスライセンスあり。
 工学部系デザイナーとして三次元 CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意とする。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	デザイン研究

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	澄川 伸一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>[対面授業] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ&エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

プロダクトデザイナー・大阪芸術大学 教授 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
 {WIKI,https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%84%E5%B7%9D%E4%BC%B8%E4%B8%80}{PORTFOLIO,https://sumikawadesign.amebaownd.com/ }
 {コラム「澄川伸一デザイン道場」,http://www.pdweb.jp/column/index.shtml}
 ▼プロフィール 千葉大学工学部卒業後、ソニー本社デザインセンター、アメリカデザインセンターで、ウォークマン、ラジオ、TVなどをデザイン。1991年澄川伸一デザイン事務所設立、現在に至る。グッドデザイン賞審査員を13年務める、うちユニット長も数多く務めた。また様々な企業のデザイン戦略のアドバイザーも務める。2016リオ・オリンピック,2020東京オリンピック公式卓球台を二大会連続デザインし世界中の話題となる。卓球台は高校の美術の教科書に名前入りで掲載された。日本文教出版「高校生の美術3」光村図書「美術3」など
 2017年子供向け大型遊具「マウンテン」がドイツIFデザイン賞受賞。その他、REDDOT,グッドデザイン賞など受賞歴多数あり。
 ベネッセ進研ゼミのタブレットなどメイン教具をデザイン担当、その多くはTVCMなどで放映されている。学生時代よりバックパッカーとして世界57ヶ国の滞在経験を活かし、固定概念にとらわれないデザインを実践。また、スキューバダイビング PADI アドバンスライセンスあり。
 工学部系デザイナーとして三次元CAD、プリンターをフル活用した幾何学スキルで心地よい曲面設計を得意とする。現在も、最先端の機器から伝統工芸まで幅広いジャンルをデザイン。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	デザイン研究
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					
授業目的と到達目標					
作品制作に対して表現方法や技術面のサポートしながら制作作品に相応しい作品を目指す。					
授業概要					
作品制作の技術指導					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。前期研究テーマによって修得した技術の集大成となる学位作品制作に努める。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品		50			
制作姿勢		50			
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	工芸家のための金属ノート				
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男		
参考書名2	黄金有情				
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
千家十職中川浄益茶道具制作に従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	学位作品を念頭に研究計画書の作成研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練				

2	学位作品を念頭に研究計画書の作成研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
3	学位作品を念頭に研究計画書の作成研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
4	学位作品を念頭に研究計画書の作成研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
5	学位作品を念頭に研究計画書の作成研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
6	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
7	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
8	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
9	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
10	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
11	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
12	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
13	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					
授業目的と到達目標					
学位作品制作に対して表現や技術面のサポートしながら学位作品に相応わしい作品制作を目指す。					
授業概要					
研究テーマに沿った素材、表現方法、技術の研究及び研修。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。学外での公募展、各種イベントに研究制作に支障のない範囲で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			50		
作品制作要旨			30		
制作姿勢			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	工芸家のための金属ノート				
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
千家十職中川浄益茶道具制作従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	作品制作の進捗状況チェック				

2	作品製作	
3	作品製作	
4	作品製作	
5	作品製作	
6	作品製作	
7	作品製作	
8	作品製作	
9	作品製作	
10	作品製作	
11	作品製作	
12	作品製作、学位作品制作要旨作成	
13	作品製作、学位作品製作要旨作成	
14	作品作成、学位作品製作要旨作成	
15	合評	

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形の分野では様々な作品が生み出されている。その中で各自が当分野における立ち位置を見つけることを目的とし、各自の感性と素材や技法、プロセスに立脚した制作を確立することを目標とする。					
授業概要					
受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。現代染織の国際動向、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教室で課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
月毎のレポート			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
舘 正明 TATE masaaki Art Works,tatemasaki,jimdofree.com 小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com					
特記事項					
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。					

教員実務経験	
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし現代染織の表現について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形の分野では様々な作品が生み出されている。その中で各自が当分野における立ち位置を見つけることを目的とし、各自の感性と素材や技法、プロセスに立脚した制作を確立することを目標とする。					
授業概要					
受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。現代染織の国際動向、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教室で課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的に出かけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
月毎のレポート			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
舘 正明 TATE masaaki Art Works,tatemasaki,jimdofree.com 小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com					
特記事項					
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。					

教員実務経験	
染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし現代染織の表現について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。					
授業概要					
対面授業教員との討論を通し制作スタイルを模索する。作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己評価を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。論文は自宅でしっかりと記述してくる事。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
ガラス工芸作家 ガラス工房経営					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。					
授業概要					
対面授業教員との討論を通し制作スタイルを模索する。作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己評価を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
制作アイデアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。論文は自宅でしっかりと記述してくる事。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
ガラス工芸作家 ガラス工房経営					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	田嶋悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。					
授業概要					
陶芸における造形は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求するなど多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別	割合(%)				
作品	80				
提出物	10				
授業に取り組む態度	10				
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	研究目標および計画についての面接指導
3	プレゼンテーション
4	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
5	プレゼンテーション、アイデアスケッチおよびマケット制作
6	素材研究
7	素材研究
8	作品制作
9	作品制作
10	作品制作
11	作品制作
12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
今までの研究をさらに推し進めながら制作を行い、創作者としての意識を高める。					
授業概要					
教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展覧会場に作品展示。記述文章の検証。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別	割合(%)				
作品	80				
提出物	10				
授業に取り組む姿勢	10				
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	研究の経過報告				

2	研究目標および計画についての面接指導
3	展示計画の検討
4	素材研究および作品制作
5	素材研究および作品制作
6	素材研究および作品制作
7	素材研究および作品制作
8	素材研究および作品制作
9	素材研究および作品制作
10	作品焼成
11	作品焼成
12	作品完成への最終工程
13	作品の展示計画および備品制作
14	作品の展示計画および備品制作
15	講評

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
よりよい修士作品を仕上げることを目的、また目標とします。					
授業概要					
対面授業書きたいものをどんどん書いてきてください。それと並行して、1年目は文章のトレーニングを行います。いろいろなジャンルのものを書いてみましょう。それはまた、自分の書きたいものや書き方を見直すきっかけにもなるかもしれません。可能であれば取材をして書くということも考えています。文章の基礎体力をつけた上で、2年目は修士作品を仕上げていきます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業日は変更が出る場合があります。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(受講姿勢、課題に対する取り組み方)			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				

1

各回、書いてきたものについて話し合いながら、どうすれば自分の伝えたいことが読む人により伝わるかを考えていきます。私自身も、自分の伝えたいことを人に伝えるために試行錯誤をしています。一緒に作品を作り上げていきましょう。

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名	文学創作研究演習				
授業目的と到達目標					
よりよい修士作品を仕上げることを目的、また目標とします。					
授業概要					
対面授業書きたいものをどんどん書いてきてください。それと並行して、1年目は文章のトレーニングを行います。いろいろなジャンルのものを書いてみましょう。それはまた、自分の書きたいものや書き方を見直すきっかけにもなるかもしれません。可能であれば取材をして書くということも考えています。文章の基礎体力をつけた上で、2年目は修士作品を仕上げていきます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業日は変更が出る場合があります。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(受講姿勢、課題に対する取り組み方)			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				

1

各回、書いてきたものについて話し合いながら、どうすれば自分の伝えたいことが読む人により伝わるかを考えていきます。私自身も、自分の伝えたいことを人に伝えるために試行錯誤をしています。一緒に作品を作り上げていきましょう。

科目名	器楽研究演習 I	年次	1	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	今川 裕代、仲道 祐子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
それぞれの時代や様式を踏まえた演奏方法を研究する。楽譜を読み、どのようなテンポで演奏するのが相応しいのか、強弱の付け方、アーティキュレーション、ペダルの踏み方などを考察すると同時に表現の可能性の幅も探る。また、自身のイメージする音楽を実際に音で奏でるために必要なテクニックを磨く。レッスンで取り組む曲の譜読みと練習、自身の音楽表現を磨くことを予習・復習としてください。					
授業概要					
90 分のレッスン。個人の進度に合わせて取り組む曲を決定する。さまざまな時代の曲を取り上げるか、一つの方向性を専門的に追求するかを相談の上、レッスンに取り組んでいきたい。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
レッスンで取り上げる曲の日々の練習を予習、復習としてください。曲をどのように解釈するのか、その為にはどのような表現が適しているのか。理想の表現に到達する為にはどのような練習が必要なのか、どのようなテクニクの改善が必要なのかを常に模索しながら練習に取り組んでください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
音楽へ取り組む姿勢			0		
レッスンにおいて、音楽的主張はできているか。			0		
教科書情報					
教科書 1	それぞれの音楽の進度を考慮して個別に決定する。				
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名 1					
出版社名		著者名			
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					
出版社名		著者名			
参考書名 5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

コンサートピアニストとしての活動、リサイタル、コンチェルト、室内楽での演奏経験を活かしての実技指導をする。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	院生一人一人と相談の上、短いスパンの目標としては年度内にある本番の準備の徹底を志す。長いスパンの計画としては、長所を磨き、苦手なところはどこに原因があるのかを見極め、改善を試みていく。

科目名	器楽研究演習 I	年次	1	単位数	4
授業期間	2024 年度 後期	形態	レッスン(個別採点)		
教員名	今川 裕代、仲道 祐子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
それぞれの時代や様式を踏まえた演奏方法を研究する。楽譜を読み、どのようなテンポで演奏するのが相応しいのか、強弱の付け方、アーティキュレーション、ペダルの踏み方などを考察すると同時に表現の可能性の幅も探る。また、自身のイメージする音楽を実際に音で奏でるために必要なテクニックを磨く。レッスンで取り組む曲の譜読みと練習、自身の音楽表現を磨くことを予習・復習としてください。					
授業概要					
90 分のレッスン。個人の進度に合わせて取り組む曲を決定する。さまざまな時代の曲を取り上げるか、一つの方向性を専門的に追求するかを相談の上、レッスンに取り組んでいきたい。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
レッスンで取り上げる曲の日々の練習を予習、復習としてください。曲をどのように解釈するのか、その為にはどのような表現が適しているのか。理想の表現に到達する為にはどのような練習が必要なのか、どのようなテクニクの改善が必要なのかを常に模索しながら練習に取り組んでください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
音楽へ取り組む姿勢			0.5		
レッスンにおいて、音楽的主張はできているか。			0.5		
教科書情報					
教科書 1	それぞれの音楽の進度を考慮して個別に決定する。				
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名 1					
出版社名		著者名			
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					
出版社名		著者名			
参考書名 5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

コンサートピアニストとしての活動、リサイタル、コンチェルト、室内楽での演奏経験を活かしての実技指導をする。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	院生一人一人と相談の上、短いスパンの目標としては年度内にある本番の準備の徹底を志す。長いスパンの計画としては、長所を磨き、苦手なところはどこに原因があるのかを見極め、改善を試みていく。

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					
授業目的と到達目標					
和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。					
授業概要					
作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリ一ゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
和声学			10		
対位法			10		
管弦楽法			10		
楽曲研究			10		
作曲			60		
教科書情報					
教科書1	380 BASSES ET CHANTS DONNES				
出版社名	ALPHONSE LEDUC	著者名	Henri Challan		
教科書2	対位法				
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン		
教科書3	管弦楽法				
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭		
参考書情報					
参考書名1	新しい音楽通論				
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	菊本哲也		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。					
教員実務経験					

教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校、大阪芸術大学、名古屋音楽大学で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	<p>和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。 楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワーグナー 2. ワーグナー 3. ワーグナー 4. ワーグナー 5. ワーグナー 6. ブルックナー 7. ブルックナー 8. ブルックナー 9. ブルックナー 10. ブルックナー 11. マーラー 12. マーラー 13. マーラー 14. マーラー 15. マーラー 16. ドビュッシー 17. ドビュッシー 18. ドビュッシー 19. ドビュッシー 20. ドビュッシー 21. ラヴェル 22. ラヴェル 23. ラヴェル 24. ラヴェル 25. ラヴェル 26. ストラヴィンスキー 27. ストラヴィンスキー 28. ストラヴィンスキー 29. ストラヴィンスキー 30. ストラヴィンスキー